

流配のキリシタンを偲び

「浦上四番崩れ」

金沢で野外ミサ、講演会、パネル展示

明治初年「浦上四番崩れ」で金沢に流配された528人のキリシタンを偲ぶ野外ミサが4月29日、記念碑が建つ卯辰山で行われました。併せて、記念の講演会とパネル展示会が金沢教会で開かれました。

ミサが行われた卯辰山の記念碑広場は、流配の浦上キリシタンが収容された加賀藩の公衆浴場「湯坐屋」跡近くの山腹にあります。1968(昭和43)年、金沢教会の創立80周年を記念して整備されました。

ミサは、同日の講演会で講師を務めた長崎教区司祭で、長崎純心大学教授、列聖列福特別委員会委員の古巣馨神父様と、石川地区の5人の神父様方の共同司式で進められました。深い木立に囲まれ「新緑のドーム」の下で、金沢教会や名古屋地区の信徒ら約40人が参列。共同祈願では、殉教者の姿と強い信仰を心に刻み、キリストの愛を力強く証する者となりますようにと祈りました。

ミサに先立つ講演会は「これは、私も受けたものです」と題し、聖堂で開かれました。講師の古巣神父様は「私は今日、昔話をするために来たものではありません」と前置きし、ここ金沢では、線で結ばれた福者ユスト高山右近殉教者と浦上キリシタンの歴史を通して未来が見えてくる、伝えていくことが大切であると語られました。古巣神父はユーモアも交え、約50人の信徒らが耳を傾けました。

パネル展示会は信徒会館で開かれ、広島教区殉教地・巡礼地ネットワークから借り受けた20枚のパネルが並びました。来場者は、浦上四番崩れの歴史的経緯や、金沢に流配された人々が長崎に帰還後に撮った集合写真に目を凝らしました。パネルはこのあと、富山、福井の教会でも巡回展示されました。

ミサと講演会の録画映像は、YouTubeに配信されました。「カトリック金沢教会」を検索して視聴することができます。

(文責・桑品)